

街並みを大きく改変するおそれのある未整備都市計画道路の見直し

都市計画決定から長期間が経過したものについては、交通状況や都市構造等の社会的状況の変化によりその必要性が計画決定時に比べて変化しているものがあり、さらに街並みに対する市民意識の高まり等も見られることから、必要に応じて見直しを行っていくことが必要

特に歴史的な街並みが存在する地区については、従来より積極的に都市計画道路の見直しを推進してきたところ

平成12年12月には、技術的助言である都市計画運用指針においても、交通状況や都市構造等の変化に基づく都市計画道路の見直しの考え方について通知したところであり、歴史的な街並みが存在する地区では、これを積極的に運用しているところ

【参考1】都市計画道路を見直している地区例

公共団体名	概要
奈良県橿原市	歴史的環境保全の観点から、歴史的地区を横断していた都市計画道路網を見直し、地区の外周部に計画を変更【S63都決変更】
埼玉県川越市	歴史的環境の保全や地区内街路の体系的整備と同時に、自動車交通の迂回を目的とする幹線道路の整備を実施【H11.4都決変更】
京都府京都市	全市にわたり、補助幹線道路に該当する都市計画道路について、伝統的建造物保存地区の景観の保全等の住区における課題に対応して詳細検討を実施し、都市計画道路の廃止を実施【H14.2都決変更】
岐阜県多治見市	中心市街地を貫通する都市計画道路について、歴史的な町屋・蔵を保存するために、広域的な道路網としてのチェックを実施した上で、計画の見直しを実施【H14.4都決変更】

【参考2】都市計画道路の変更の事例（奈良県橿原市今井町）

1．今井町の概要

今井町は、奈良盆地（大和平野）の南部に位置して藤原宮、大和三山等の史跡を擁するわが国最古の文化発祥の地であり、また高度経済成長期以降は大阪等への通勤者の居住都市として成長してきた橿原市の中心である近鉄八木駅近くに位置する。中世興福寺の荘園であったが、16世紀に一向（浄土真宗）宗門徒が集まって集落を形成したことに始まる寺内町（東西約600m、南北約300m、面積18ha）で、現在でも当時の町割りがよく残っている。周囲には環濠が配置されていたが、現在では埋め立てられ、道路と1m前後の排水路となっている。文化的遺産としては、環濠内に重要文化財の民家8棟の他、半数以上の伝統的形式を持つ民家、商家、長屋が存在し、歴史的街並みをかたちづけている。

2．従来の都市計画道路網の課題

今井町環濠内の道路は幅員が狭く、T字型交差など、自動車交通への対応が十分ではないという問題を抱えている一方で、今井町の歴史的形態の保全となじまない形で環濠内に2路線の都市計画道路が決定されており、歴史的街並みになじみ、かつ住民の生活環境の改善に資する道路整備が求められていた。

3．都市計画道路網の見直し

上記の課題を踏まえ、以下のような視点で、昭和63年に都市計画道路網の見直しを行った。

歴史的街並みの保全

今井町の歴史的街並みを保全するため、今井町を通過する都市計画道路の廃止を前提とし、代替路線の設定を検討

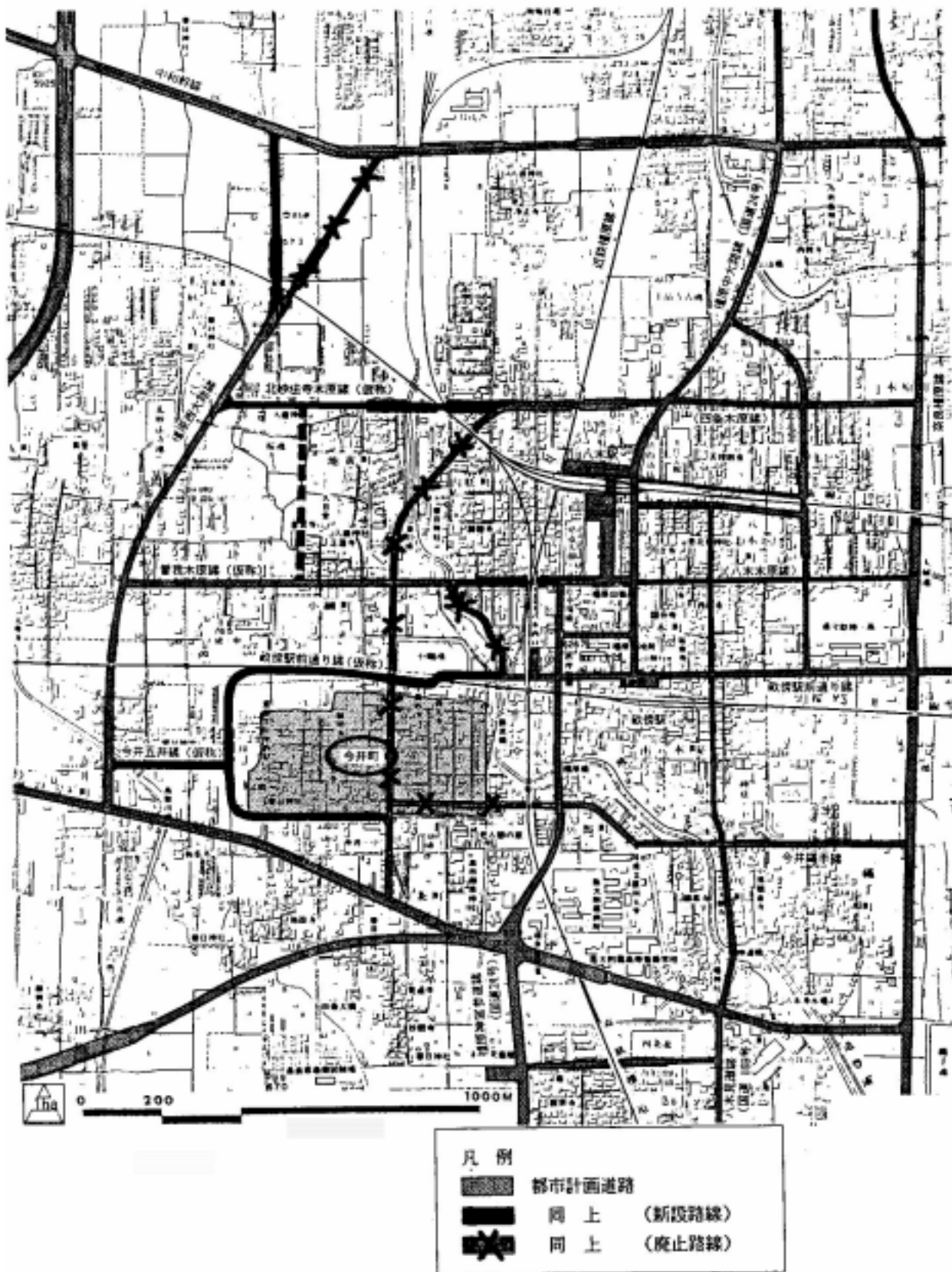
格子状パターンの継承

条里制をベースとして集落、住宅地等が立地しており、東西と南北方向の格子状道路網がなじみやすいため、これを継承するよう、斜行形態となっている都市計画道路等の見直し

鉄道による地域分断の解消

付近を鉄道が縦横断しており、これにより地域が分断されているため、特に東西方向の連絡を図り、一体的な地域発展を推進

4. 都市計画道路網の変更案



都市計画道路の変更・前+後

